加工から、組み立て、検査までの一貫対応で差別化

加工上のポイントは小ロット・単品モノへの対応　―横山社長に聞く―

受注量拡大を辿っているヨコヤマ鉄工（新潟県・小千谷市）

ユキワ精工製スーパーG1チャックユーザー訪問

取材に応じてくれた横山社長

設備機械はヤマザキマザック製を重用

プログラミングが早く行え、親しみやすい

小千谷市と言えば「鉄工の町」として知られるが、ヨコヤマ鉄工の創業は昭和35年で、地域に根を下ろし、部品加工ひと筋に62年の時を刻んできた。

2017年、3代目となった横山社長は「私の祖父が汎用旋盤を駆使してスタートした。今では、地元企業5～6社からの、精密機械部品加工に加え、組み立て、検査も踏まえた受注が多くなってきている」と語る。

最近の景況の推移では、2019年末からの米中貿易摩擦以降、コロナ禍の広がりのなか、2020年までは、仕事量が減少を辿ってきたが、2021年に入ると、国内外から需要が発生し顧客が忙しくなり、ヨコヤマ鉄工の受注量も拡大してきたと言う。

「コロナ禍によるリモートの広がりによって、基板関連の需要が新たに発生し、逆に仕事が拡大してきた」分野もある。

受注は、大きく量産モノと単品モノに分かれる。

「量産モノは1万個オーダーと、ほぼ決まっており、翌月の量も予想できる。あと、大半が、数個までの小ロット、単品モノで占められ、加工上のポイントは、まさにこの分野の効率化を図っていくことに尽きる」。

設備ではヤマザキマザック製を重視する。

「プログラミングが早く行えるうえ、入力ミスも少ない。リーマンショックの頃、修行に出ていた会社で、ヤマザキマザックの旋盤、マシニングセンタに習熟していたこともあって、私の入社以降、新たに6台、既設と合わせて8台が現場で稼働している」そうだ。

ユキワ精工のツーリングとの出会いは、仕事量拡大への対応として、昨年9月にヤマザキマザックのマシニングセンタ「VCN-430A」を導入したことがきっかけだった。

「元々、ツーリングは他社製を使っていたが、新たに設備を導入したことで、振れのないツーリングを探した。被削材は炭素鋼がメイン。実際にスーパーG1チャックを試してみると、振れがないため、加工音が静かになり、工具の摩耗も減り、チッピングも少なくなるなど、トータルで見れば、工具寿命も伸びた。その結果、月によっては、工具の使用量が半分近くになることもある。切削条件を上げても難なく使用できる点も高評価だ」

「そうで「VCN-430Aは元々、剛性が高くないと言われているが、スーパーG1チャックを活用すれば、剛性の点は気にならない」ともコメントする。

現在、スーパーG1チャックは10本、グリーンGチャックも2本活用するまでに頻度が高まっている。

最後に横山社長は「9月決算だが、目標通りの数字が見込めると思う。年率1割程度の売り上げアップを今後も目指していきたい」と締めくくった。

オペレーターの井口さん

VCN-430A導入と同時にスーパーG1チャックでトライアル

振れのないスーパーG1チャックは、工具寿命を伸ばした

「振れのないツーリングで、加工音が静かになり、工具寿命も伸び、送り条件を上げることも可能になった」

工具の使用量が半分近くになる月も

1年も経たずにスーパーG1チャック10本に

01
高精度
総合芯振れ精度
5μm保証

03
高把握力
高速ミーリングで
威力を発揮

02
高剛性
切削抵抗による
倒れに強い

Super G1 Chuck
YouTubeにて動画公開中!!

YUKIWA
ユキワ精工株式会社
http://g1-chuck.com
本社・工場／〒947-0052　新潟県小千谷市千谷2600番地1
TEL.0258-81-1111(代) FAX.0258-81-1112
営業所／東京、名古屋、大阪、中国(上海)、U.S.A.
URL http://www.yukiwa.co.jp/